芦安中学校（後期）自己評価書

平成２６年１月１６日
南アルプス市立芦安中学校
校　長　　中込　幸二

１　後期自己評価の経過

（１））後期教職員対象アンケート，生徒対象アンケート及び保護者アンケートの実施（１２月）
（２）アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（１月１０日）

２　学校評価の分析と改善方策

（１）教育目標

〔達成状況〕
○学校教育目標から出発した教育活動の展開，意識化については概ね良好な状況にあり，学校教育目標具現化に向け，学校経営方針を理解し教育活動を行っている。
〔改善策〕
○今後とも学校教育目標を全教職員が意識し，その目標の達成に向けて，日々のすべての教育活動の中で組織的・継続的に取り組んでいき，PDCA サイクルを生かした教育活動の実施に努めたい。

（２）学校運営

〔達成状況〕
○「校務分掌」については，少ない職員数で，どの職員も多くの仕事を抱えているが，一人ひとりがそれぞれの立場で職務を責任を持って遂行している。また，学校全体で取り組もうとする意識があり，協働体制も良好である。
○校内研究については，３つの柱（コミュニケーションづくりの推進，英会話科，食育）を中心に取り組んできた。食育公開，英会話科の推進では，研究主任や英語担当教師を中心に，職員全体で研究を進めることができ，生徒の成長につながる良い成果をあげることができた。また，関係者や参観者からの高い評価を受けることができた。コミュニケーションづくりの推進では，英会話科，合同朝の会，絆のつどい等を通して，他者とコミュニケーションをとる楽しさを知る機会を増やしてきた。
○「報告・連絡・相談」の状況は良好で，前期同様に開かれた風通しの良い職場となっている。
〔改善策〕
○できるだけ校務分掌を平均化し，学年体制で補える部分，職員全体でバックアップできる内容等，状況に応じて複数職員で対応できるような協働体制をさらに強めていき，計画的・組織的に教育活動を行っていきたい。
○職員室が授業や生活における生徒の情報や指導方針を共有できる場，コミュニケーションの場として，今後も機能させていきたい。

（3）学習指導

〔達成状況〕

○学力向上は本校の指導重点の一つである。まなびの時や放課後補習，家庭学習の取り組みを通して，基礎学力の定着を図ってきたが，学習内容の定着に時間がかかる生徒もいる。

○家庭学習については，やってくる生徒とやってこない生徒が固定化している。課題が未提出の場合は，「放課後残ってやっていく」「課題終了後，部活を行う」という指導を繰り返している。

○学習態度は良いが，学び合う授業については，生徒の実態にあった改善を行う必要がある。

○道徳や総合的な学習では，外部講師を活用し関心興味を持たせる学習を図ることができた。

○英会話科について

・ゲームを中心に授業づくりを行い，英会話を楽しみながらコミュニケーションづくりが図られてきた。

・小学校への英語絵本の読み聞かせでは，身振り手振りも入れながら発表し，小学生にも好評であった。

・全職員が英会話科に関わり，柔軟に指導方法，指導体制，指導内容を工夫改善し，生徒が日々の中で英語に接したり，活用したりする場面を増やしてきた。

○食育について

・道徳，学活の時間を中心に取り組み，食にかかわる人々や食への感謝の気持ち，礼儀，食文化，食生活習慣など効果的に学ぶことができた。

・食育公開では，英会話の特色を生かした授業で外国人協力者とコミュニケーションを取りながら，外国の食文化・日本の食文化について学習できた。

〔改善策〕

○学力向上に向けて

・よさや可能性を伸ばし，自分への自信をもたせるような指導

・個に応じた指導（繰り返し指導，ドリル学習，その子にあった課題の与え方）により基礎的基本的な知識・技能の確実な定着を図り，わかる喜びをもたせる指導

・キャリア教育など通して，学ぶ意義を認識する指導

・家庭との連携による家庭学習の習慣化

・まなびの時，放課後の補習の充実

○外部講師や地域人材を活用し，学習意欲の喚起や学習活動の充実を図っていく。

○食育については，本年度の成果を活かし，工夫改善して行っていく。

（4）生徒指導

〔達成状況〕

○学校生活について，教師アンケートも含め「明るく楽しい」と感じている生徒や「仲のよい友だちが複数いる」という生徒の割合が多く，前期同様に比較的安定した学校生活を過ごしている。しかし，「困った時に相談できる友だち」「困った時に相談できる先生」がいない生徒や学校生活へ不安を抱えている生徒も数名いる。

○個々に対応しなければならない生徒はいるが，全体的に前向きな姿勢で物事に取り組んでいる。

○生徒指導上，生活指導上で気になることは，すぐに報告・連絡され，素早い対応が図られてきた。また，教職員の指導に対して，生徒たちは素直に受け入れ，態度を改めている。

○学校生活に不安を抱えている生徒に対しては，保護者も含め，スクールカウンセラーと連携をとりながら対応している。
○「言葉づかい」「あいさつ」については，教職員の課題として指摘されている。
〔改善策〕
○適切でない言葉が発せられたときは，その場で言い直しをさせるなど，お互いを認め合い，相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。
○課題のある生徒の指導には，一人で抱えるこむことなく，情報を共有し，職員全体で支援・指導をしていく。また，スクールカウンセラー，関係機関，保護者と連携し，学校生活に適用できる支援を行っていく。
○普段から生徒の話を聞く姿勢を持ち，信頼関係を深めるとともに，生徒の小さな変化や危険信号を見逃さないように情報収集のアンテナを高くしておく。教職員相互が生徒の情報交換を積極的に行い，指導方針を共有し合い，全職員で同じ歩調で対応していく。

（５）学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕
○白峰祭では，生徒の実態にあった構成で，全校劇，全校登山の発表，夜叉神太鼓の演奏，合唱等の発表ができた。準備・片づけも含めて，意欲的に活動していた。
○バトミントン部では新体制になり，目標を持って練習に励んでいるが，部活動に対する意識や練習に向かう姿勢に差がある。
○太鼓部では，本年度は白峰祭，食育公開のアトラクションと発表の機会が２度あった。発表の機会が増えたことで，技術的にも成長できた。
○いろいろなジャンルの普段の合唱の取り組みや音楽会，食育公開のアトラクションの発表を通して，歌を楽しみながら表現しようとする力が着実に育ってきた。
○本年度の「絆のつどい」は，生徒会と先生方が協力して企画運営し，回数も多く開催され，生徒同士や教師とのコミュニケーションを図る機会となった。生徒会活動や委員会活動では，担当生徒がみんなの前で説明したり，発表したりする機会を多く取り，主体的に取り組む意識を持たせるようにしてきた。また，委員会活動も例年より活動する場面が増えた。
○言われたことは素直で前向きにやる生徒が多いが，自主的・主体的に取り組む点で課題が残る。
〔改善策〕
○生徒の「主体性・自律性」を育てるために，学習や諸活動の中で，生徒が選択し決定する場面をできるだけ取り入れていき，認める・褒める活動を意識的に行っていき，自己肯定感が持てるようにしたい。

（６）家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕
○学校林への親子植樹，全校登山の支援者，PTA 奉仕作業，学校行事等，昨年度より保護者の出席が多くなっている。保護者から学校に対する期待も大きい。
○家庭学習の取り組みは，まだ十分とは言えない。また，生活習慣が不規則な生徒も見られる。
○小中連携については，本年度は英会話科を中心として，例年以上に連携が図られ，小中学生の交流も

深められてきた。また，小学生の前で中学生が発表することは，ほどよい緊張感がありよい体験となった。（英語絵本の読み聞かせ，文化発表会＆音楽会）

・小中連携会議（２回）　英会話科推進会議（４回）　小中連絡会（１０回）
・合同朝の会　・イングリッシュゲーム　・ハロウィンパーティ　・英語絵本の読み聞かせ
・小中合同文化発表会＆音楽会　・合同合唱　・若葉給食，やきいも集会による交流
・小中合同地区別集会（２回）　・６年生の中学校での授業体験＆部活体験（予定）

〇学校だより，学級だより，ホームページ等を活用し，学校の方針や子どもたちの様子，自己評価や学校関係者評価の情報公開を行ってきた。ホームページは南アルプス市で一番アクセス数も多く，芦安中への関心が高い。

〔改善策〕

〇個々の生徒の課題（家庭学習，生活習慣等）については，保護者との連絡を密に取りながら，学習習慣の定着や健全な生活習慣の育成を図っていく。

〇今後も地域の人材の有効な活用や地域行事の参加を通して，地域社会との交流や協力体制に努めていきたい。また，情報を積極的に発信し，学校の責任説明を果たし，地域・保護者と連携した学校づくりを進めていく。

〇本年度取り組んだ小中が連携した英会話科の推進，小中の交流活動，小中合同 PTA の運営等の成果と課題を検討し，さらに充実した活動となるよう改善・工夫を行う。

〇児童生徒の交流や教師同士の交流を図り，小中での課題を共有し，９年間を見通した教育活動を今後とも進めていきたい。

（７）その他

〇職員体制が変わっても継続的な教育活動ができるように，分掌の引継ぎをしっかり行う。そのために文書資料とデータの保存を次の担当がわかるようにしておく。

〇特色ある学校とは，他と違う新しいものを作っていくだけではなく，わが校にしかない「強み」を出していくことである。本校には，登山を始めとする自然体験学習や英会話科，食育，バドミントン，夜叉神太鼓等，様々な「強み」がある。ただ活動をこなすという視点でなく，どんな力をつけさすのかという視点で有機的にこれらの活動を結び付け，教育成果をあげていく。

〇危機管理意識を高めるために

・自分で危険を予測し，回避できるための主体的な行動ができる安全教育を推進していく。

・いろいろな場面を想定した訓練の実施（小中合同避難訓練，休み時間，放課後，一次避難場所から二次避難場所へ，いつやるか知らせない等）

〇日々の教育活動が充実して行われるために

　教職員一人ひとりがそれぞれの立場で職務の遂行に務めていくと同時に，いっそう充実させるために，児童生徒や保護者，地域の方々から理解と協力を得て，計画的・組織的に学校運営に取り組んでいきたい。